

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2772001604
法人名	株式会社 住装
事業所名	グループホームあびこやすらぎの里
訪問調査日	平成 20 年 10 月 27 日
評価確定日	平成 20 年 11 月 25 日
評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2772001604
法人名	株式会社 住装
事業所名	グループホーム あびこやすらぎの里
所在地	大阪市住吉区我孫子町2丁目1番18号 (電話)06-6692-4976

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	大阪府中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年10月27日	評価確定日	平成20年11月25日

【情報提供票より】H20年10月6日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	5 人, 非常勤 8人, 常勤換算 9.9 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	59,000 円	その他の経費(月額)	27,000 円	
敷金	有(円)	無	○	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(350,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

(4)利用者の概要(10月6日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	8 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.7 歳	最低	65 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	東住吉森本病院、あびこ病院、辻クリニック、梅山歯科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームあびこやすらぎの里はJR阪和線「我孫子町駅」近くの静かな住宅街にあり、南向きで日当たりのよい温かい雰囲気の建物である。法人の母体は繊維関係の会社で婦人会に関する事が多く、大勢の方々から介護施設の必要性を聞き平成12年訪問介護を開設、平成16年11月にグループホームを開設した。家庭的な雰囲気の中で、一人ひとりが大切にされ、地域、家族の協力を得ながら生活できるよう支援されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価でアセスメントが充分でないと指摘されていたが、モニタリングを4カ月に一回、介護計画の見直しを3カ月に一回行い、また家族・スタッフ・医療関係者等とよく相談検討した上、サービス担当者会議でも十分に話し合われている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で話し合い取り組んでいる。外部評価の結果は、職員会議、運営推進会議で報告検討し、サービスの向上への具体案の検討や実践に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は3カ月に一回、包括支援センター職員・民生委員・家族代表者・管理者が出席し開催されている。現状の報告から、玄関の施錠について説明し検討したり、包括支援センターからは介護支援の情報が述べられたりしている。家族の出席が増え、意見交換が活発になることを期待する。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情受付窓口担当者を決め、苦情・意見などに対応している。玄関には苦情箱も設置されている。家族が来訪時に話しやすい雰囲気作りに努め、出た意見や苦情は直ぐにスタッフ会議で検討して結果は家族に報告している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の幼稚園が敬老の日に訪問してくれたり、運動会に招待されたりしている。近隣の中学校で開かれているディサービスやふれあい喫茶に出かけたり、週一回の地域住民による歌のボランティアも楽しんでいる。また、早くから町内会に入り、盆踊りなどの行事に参加するなど、地域の中でより快適な生活が出来るような取り組みをしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「あびこやすらぎの里は、家庭的な雰囲気の中で皆様の人格を尊重しその尊厳を守り『安心』『安全』『満足』をモットーに地域や皆様方の協力を得ながら質の高いサービスを目指します」と独自の理念を掲示し、地域生活の継続を支えることを柱に置いている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	認知症ケアへの10原則とともに、理念を共有するために毎朝のミーティングで確認し唱和している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	幼稚園や地域の行事に参加したり、時には近くの中学校の空き教室で実施しているデイサービスに参加したりもして、地域の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価や外部評価の意義や目的を職員に伝え、内容評価・改善計画について全員で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者家族等・民生委員・地域包括支援センター・事業所管理者等により構成され、3ヶ月に一度実施されている。そこでは検討事項、懸案事項について話し合い、出された意見は事業所のサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所の介護保険課や福祉課へは、介護サービスの見直し時や事故報告など、折に触れ訪問し相談しながらサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理等については月に1回書面で定期的に報告している。また、家族等の来訪時には声を掛け、利用者の状況や家族等の事について話し合うなど、個々にあわせた報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族等が参加され意見・不満・苦情を表す機会を設けられている。その他、家族会や苦情箱も設置され、そこで出された意見を事業所の運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動時の対応は、今までの職員との引き継ぎ期間を充分に取り、極力利用者のダメージを防ぐようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症高齢者について、救命救急についてなど、ほぼ月に1度、事業所内外の研修やトレーニングがされ、研修を受ける機会が確保されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪市内、および住吉区内でのグループホーム・ネットワークに参加し、交互に研修をしあいながらサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなりの入所ではなく、見学や体験入所をし職員や他の利用者・場の雰囲気に徐々に馴染んでもらいながら、本人が納得した上でサービスの利用に移行している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴を職員全員が周知し、絵画・書道・炊事などそれぞれの得意の分野で力を発揮してもらうなどして、学んだり支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や会話の中から、また利用者本人や家族等から聴きだした生活歴などから、一人ひとりの思いや暮らし方の希望の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人や家族等、日頃のかかわりの中から得られた意見を介護計画に反映させ、利用者が自分らしく暮らせるように努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	設定した期間外であっても、利用者本人や家族等の要望や変化が生じた時には、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族等の状況に応じて、墓参り、通院、美容院の送迎等、その時々々の要望に応じて多機能性を活かした支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族等の希望するかかりつけ医となっている。受診や通院についても、基本的には家族等同行の受診となっているが、不可能な時には職員が同行するようにして支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者や家族等が安心してサービスの利用が出来るように、重度化した際の対応方法について入居時に事業所の方針を説明している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう、トイレ誘導や食事介助などはさり気なく対応されている。また、記録等個人情報はスタッフルームの書架に施錠して保管され、秘密保持の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で一日のスケジュールを決めるのではなく、利用者が主人公となって居室で自由に絵を描いたり、物作りをするなど、利用者本位の生活を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と共にお米をといだり、オカズの下ごしらえしたりして、楽しく食事が出来る雰囲気作りをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回の入浴にしているが、曜日や時間帯は決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて何時でも入浴が楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、貼り絵・書道・園芸の楽しみごとなど、利用者の豊かな暮らしを支えるための支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の希望にそって、近くへの散歩だけでなく、外食にすし半や中華料理店に出かけるなどして心身の活性につなげるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室の鍵は掛けていないが、玄関は職員の目が届きにくく安全確保のために施錠されている。	○	日中、職員の見守りの方法を吟味し、時間を決めてでも鍵を掛けずに自由な暮らしを支える工夫が欲しい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所だけでなく、消防署の協力を得ながら避難訓練や消化器の使い方を定期的に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分摂取量を毎日記録しながら、栄養バランスや水分量が確保出来るよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールには利用者の書かれた書やちぎり絵、利用者の作った縫いぐるみなどで飾ったり、中庭に季節の草花を植えるなど、居心地よく生活できる工夫が随所に見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンス、小物にいたるまで、すべて利用者の馴染みのものが用意されていて、安心して過ごせる配慮がされている。		